

豊かな人間性を育んでいきたい
日々の遊びや集団生活を通して
子どもたちの健やかな成長を支え

鳥田 早速ですが、「わかたけ会」さんの沿革からお聞かせいただけますか。

の母親グループによつて 1962 年に開設された「わかたけ保育園」が当法人の始まりです。そして創立から 2 年後、板橋区からのお要請と個人の私財提供によって「社会福祉法人 わかたけ会」が発足。それと共に認可保育所となり、以来、長年にわたり地域の児童福祉を支えて参りました。現在は「わかたけ保育園」「わかたけ第二保育園」「わかたけかなえ保育園」という 3 つの認可保育所を運営しています。

島田 理事長はやはり、幼い頃から保育の世界を志しておられたのでしょうか。

日本 いえ、まったく。自宅は保育園の隣にありましたし、保育に携わる祖父母や両親を見て育ちましたが、学生時代は數かれたレールに乗るのが本当に嫌でした。結局、長男という立場に逆らえずレールに乗ってしまいましたが、「やると決めたのは自分だ」と思っています。

島田 「わかつたけかなえ保育園」を新設されたきっかけは?

山本 ここ数年、保育園の待機児童が大きな問題となっていますよね。その数は全国で2万人以上となっていて、東京など大都市では保育所を作っても作っても追いつかないような状況です。一方、福祉事業である認可保育所は儲けのない仕事ですし、リスクばかりが増える複数施設

1962年の創立以来、長年にわたり地域の児童福祉に貢献してきた「わかたけ会」。2011年4月には「わかたけかなえ保育園」を新設するなど、変化を続ける社会の中で時代に応じた保育園の在り方を模索している。本日はそんな同会を女優の島田陽子さんが訪れ、子どもたちの成長を支える山本理事長にお話を伺った。

設の運営には消極的な法人が多いのが実情です。しかし、困っている人たちがいる以上、誰かがやらなければならない仕事ですからね。板橋区の保育園新設計画を見たときに、他人任せではなく自分がその「誰か」になってみようと思いまし
た。

島田 著いのにご立派です！それにしても、少子化でありながら待機児童が増えてるというのに不思議ですね。



三本慎介

保育園を運営する畠父母や両親を見て育ち、自身も保育の世界へ。二〇〇〇年に「わかたけ第一保育園」に就職し、二〇〇五年に同園の園長に就任。二〇一一年に新設した「わかたけ保育園」に就職し、園長職となり、現在に至る。「社会福祉法人わかたけ会」の理事長職を二〇一〇年から務める。過渡期における保育の世界で全力を尽して次代を担う子どもたちの成長を支えるお手伝い書いた。

会福祉法人 わかたけ会
かたけかなえ保育園

東京都板橋区常盤台 3-12-15
TEL 03-5918-9868

School Data

v.

職員一人ひとりが自ら考え、最善の保育を実践する

▼現在、板橋区内で3つの保育所を運営している「わかたけ会」。複数の園を運営している場合、保育マニュアルを作成し、各園の統一を図るのが一般的だ。しかし、同会ではそれをしていない。

▼山本理事長はその理由をこう語る。「同じ区内とは言え地域環境も施設環境も異なります。それに保護者のニーズも様々ですから保育園は本来、施設ごとに運営方針を策定すべきなんです」。その言葉通り、理事長は各園長に園の運営を一任。そ

こですべてが終わったかのように安堵される保護者もいます。しかし保育園生活はそこから始まるのですから、私たちは、その安堵が継続した安心につながるようにしていかなければなりません。

島田 なるほど。実際の保育においてはどうなことに留意されていますか。

山本 乳幼児期は、人間形成の基礎を築く重要な時期。だからこそ当園では子どもたちの個性を尊重しつつ、将来社会の一員として生きていく上で必要となる普遍的な部分を育む保育を行うよう心がけています。例えば周囲にいるお友達との遊びを通して人間関係を築く大きさを伝えたり、集団生活を通して協調性や社会性の重要さを学ぶことができる環境を整えたり……。最近は早期教育を重視している保育園も少なくありませんが、私たちがあくまで、人として生活するために必要な基盤をしっかりと築いてあげられるように努めています。

そのために、保育を行う上で心がけているのが、子どもたちに様々な経験ができる場を作つてあげること。乳幼児期は広く浅くでいいので、色々なものを少しずつ経験してもらうことで好奇心を育み、子どもたちが持つ将来の可能性を広げてあげらればと考えています。

島田 そのためには、職員の方一人ひとりの力も大切になりますよね。

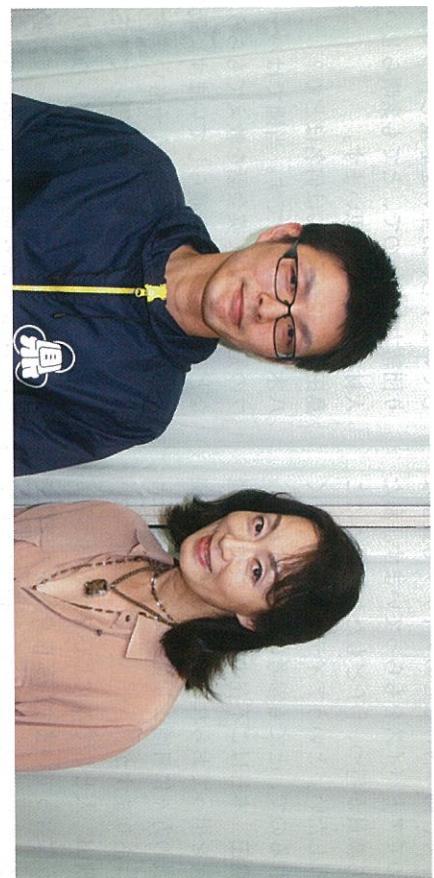
して各園では、園長が示した方針のもと、専門的な見方や接し方ができるようになりますからね。そして、そういった職員をまとめて保育園を良い方向に導いていくのが、理事長として私の務めだと考えています。

島田 まだお若いにもかかわらず確固たるビジョンをお持ちですし、今後が益々楽しみです。それでは最後に、将来に向けての展望をお願いします。

山本 保育の世界では今、待機児童の問題をはじめ、幼稚園と保育園の一体化など様々な課題が山積していまして、将来の展望はまったく不透明です。しかし、

どれだけ社会環境が変わっても、「保育」という仕事はなくならないはず。子どもたちや家庭を取り巻く環境を長いスパンで見つめながら、時代に即した「保育」を模索していくたいと思います。その結果がどうなるかもさっぱりわかりませんが、次の世代、そのまた次の世代の人たちに何かを残すことができれば嬉しいですね。そもそも利益や名前とは無縁の仕事ですから、「自分のため」ではなく「世のため人のため」を第一として、子どもたちの健やかな成長を心の糧にしていくたいと思います。

(取材／2011年4月)



「地域社会のために尽くすその姿に大きな感銘を受けました」

「家業であっても『やると決めたのは自分だ』と仰る山本理事長。まだお若いながらも地域社会のために精力的に動いておられるその姿には感銘を受けました。

保育の世界は過渡期にあるとのことですが、理事長ならきっと時代に即した保育園を築いて下さることでしょう」



ゲスト 島田 阳子

山本ええ。ですから職員たちは「日々自己研鑽に励み、自分自身が保育材料となれるように頑張ってほしい」と話しています。また当園では、保育士資格を持ちながらも異業種に携わっていた人や保育所とは異なる施設で働いていた人など、保育以外の世界を見てきた人を積極的に採用しています。色々な価値観を持